

【地区ごとの会議】

	地域で出来そうなこと
中央	<ul style="list-style-type: none"> ・息子から夫婦の情報(生活歴等)入手を。 ・偶然を装い、買い物行った先で声をかける、など関係を作っていく。 ・110番とはつながっており、警察介入をきっかけに、巻き込むことも一手。 ・服薬確認をして出来ていなかったら、病院や本人宅に連絡する。 ・認知症外来の名称変更。・消防や警察との連携。
小田	<ul style="list-style-type: none"> ・介入困難だが、見守りの目が無いかも。(泥棒) ・洗濯物干されている・電気ついていないなど、具体的約束事を決め、何かあれば連絡するルール化。 ・夫の外出時や買い物行った先で声をかける、など関係を作っていく。 ・息子をキーパーソンに、夫婦の生活歴を聴取、状況を再アセスする。
大庄	<ul style="list-style-type: none"> ・包括Cも警察と連携すること(個別々会議)で情報共有を進めている。 ・息子・夫婦2人がキーワード。息子を突破口に、成年後見制度や金銭管理など身に迫った話から、巻き込んでいく。 ・地域へ認知症に関する恐怖感への対応。「怖い」でなく、正しく理解されるような啓蒙・研修+地域の人に役割を持ってもらえるアプローチ 認知サボ講座 ・奥さんに幼稚園の先生暦を生かし、「サロンなどで役割」を持ってもらうのも一手。
立花	<ul style="list-style-type: none"> ・つめきりなど身体的介護からの介入も可能(看護) ・薬局も介入の窓口になれるかも。 ・民生委員とも、何気ないことも情報共有が大切。
武庫	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全は本人だけでなく、住民どうしの日常的な信頼関係の構築が大切。 ・専門職からの介入だけでなく、地域も同じ視点で介入する。 ・同じ職種から報告を。
園田	<ul style="list-style-type: none"> ・不安・不満を「聞く」こと=信頼関係が無い人に扉は開かない=専門職のみならず、かかわるすべての人。 ・認知症との言葉を発したために拒否された可能性ある。 ・共通した不安や不満から民生委員や地域が繋がることもできる。